

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地								
日本ペット&アニマル専門学校	平成14年3月5日	齋藤 勝	〒175-0093 東京都板橋区赤塚新町3-17-17 (電話) 03-3938-8688								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地								
学校法人タイケン学園	平成9年10月30日	柴岡 三千夫	〒175-0094 東京都板橋区成増1-12-19 (電話) 03-3938-8689								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士							
文化教養	動物管理専門課程	水族館・ドルフィントレーナー科	平成16年文部科学省告示第29号								
学科の目的	ペットブームの中、動物業界での即戦力としての人材が求められている。企業との連携により実践に近い学習を通して、そのための人材育成を図る。										
認定年月日	平成14年3月5日										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技				
2	昼間	1,860時間	600時間	720時間	540時間	120時間	0時間				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数						
80人	69人	5人	3人	5人	30人						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 教育課程の定めるところにより、各学年ごとの修了すべき科目について試験を行い合格者に対し当該科目の修了を認定する。ただし、実習については、実習の成績によって修了を認定することができる。							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月20日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月31日	卒業・進級条件		所定の過程を修了した者には卒業証書を授与する。(第18条)校長は教育課程の定めるところにより、各学年ごとに修了すべき科目について試験を行い、合格者に対して当該科目の修了を認定する。ただし、実習については、実習の成績によって修了を認定することができる。							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話対応、保護者への連絡面談	課外活動		■課外活動の種類 吹奏楽、チャダンス ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に係る平成30年5月1日時点の情報)							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生)		主な学修成果(資格・検定等)※3		資格・検定名			種	受験者数	合格者数	
	■就職指導内容 仕事の実態を把握させる、会社・業界の現実を理解させる				アクアリウムコー	③	21人	20人			
	■卒業生数 21人										
	■就職希望者数 18人										
	■就職者数 18人										
	■就職率 : 100%										
	■卒業生に占める就職者の割合 : 86%										
	■その他										
	(平成29年度卒業者に係る平成30年5月1日時点の情報)										
中途退学の現状	■中途退学者 6名		■中退率 21%		平成29年4月1日時点において、在学者63名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者57名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 病気、学校生活不応 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任教員との面談						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※母子家庭、遠隔地からの入学者等に対する減免		■専門実践教育訓練給付: 非給付対象								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無										
当該学科のホームページURL	http://www.petandanimal.jp										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・人材育成のため企業と連携して、即戦力となるための取組、複数施設への実習 ・生徒の就職に対する意欲の向上

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

定期的に実習先、学生から意見を聞く。(アンケート、ヒアリング等)収集した意見を教育課程編成委員に伝達して、委員会の際に検討し、実際の教育課程編成に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
長尾 壮七	日本ペット&アニマル専門学校	平成30年4月1日～平成31年3	
齋藤 雅昭	日本ペット&アニマル専門学校	平成30年4月1日～平成31年3	
中辻 良太	日本ペット&アニマル専門学校	平成30年4月1日～平成31年3	
攪上 誠	日本ペット&アニマル専門学校	平成30年4月1日～平成31年3	
守屋 亨	日本ペット&アニマル専門学校	平成30年4月1日～平成31年3	
加藤 元	一般財団法人J-HANBS	平成30年4月1日～平成31年3	②
花上 進緯雅	東京都ケネル事業協同組合	平成30年4月1日～平成31年3	③
水野 隆弘	水野動物病院	平成30年4月1日～平成31年3	③
北村 昭二	群馬サファリワールド株式会社	平成30年4月1日～平成31年3	③
太田 正孝	氷取沢ファミリー牧場	平成30年4月1日～平成31年3	③
榊原 茂	京都水族館、下関海響館	平成30年4月1日～平成31年3	③
井坂 啓己	一般社団法人ビーチクラブ全国ネットワーク	平成30年4月1日～平成31年3	③

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成18年12月13日 14:30～16:00

第2回 平成19年3月12日 14:30～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・自動車免許取得向上への取組 ・資格取得向上への取組 ・他学科の知識を取り入れる等着実に実施し、成果に結びつけている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業教育の質を確保するため、特に実習、演習等の授業における学習や技術指導、学習成果の評価等において企業等と連携し、職業に必要な実践的かつ専門的能力を養うものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

●環境:動物の飼育方法や扱い方を学び、動物のの保護・保全啓蒙活動や、接客対応など、応用的作業を学ぶ(TSUBASA)

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
木曜実習	動物園実習	東筑波ユートピア
木曜実習	動物卸売業務実習	キャラバン
木曜実習	ショップ実習	ブランディング
~~~~~		

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 本校では、教員に対し最新の知識、技術の強化、改善を図るための企業との連携による研修を行い、授業に活用できる能力、資質の向上を図る

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ダイビング資格取得について

」(連携企業等:獅子浜ダイビングサービス)

)

期間:6月27日～(1日間)

対象:生徒、教員

内容:

② 指導力の修得・向上のための研修等

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「船舶免許取得について

」(連携企業等:アップストリーム)

期間:12月5日(1日間)

対象:生徒、教員

内容:

② 指導力の修得・向上のための研修等

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

・学校関係者として各科の分野に精通した関係者とともに学校関係者評価委員会を設置。・各分野の実務(実習)に関する意見を活かし教育環境等についての評価結果を次の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・学校教育における職業教育の特色は何か ・社会のニーズ等踏ま
(2) 学校運営	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
(3) 教育活動	・職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・資格取
(4) 学修成果	・就職率、資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図
(5) 学生支援	・進路、就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分に対応できるように整備されて
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8) 財務	・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・会計検査が
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか ・個
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11) 国際交流	・留学生の受入・派遣について戦力を持って国際交流を行っているか

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

問題点(教員の能力向上のための研修、講習会への参加)の現状見直しのためにつねに改善を行う

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
立花 俊一	ユニバーサルツーリスト株式会社	平成30年4月1日～平成31年3	企業等委
秋山 哲朗	株式会社アビースポーツ	平成30年4月1日～平成31年3	企業等委
江崎 泰元	葵コーポレーション株式会社	平成30年4月1日～平成31年3	企業等委
高阪 史生	ウエルソル株式会社	平成30年4月1日～平成31年3	企業等委
三畑 武一	NPO法人ミハタ	平成30年4月1日～平成31年3	講師
齋藤 忍	獅子浜ダイビングサービス	平成30年4月1日～平成31年3	講師
さとう 俊	マメチ・プロダクション	平成30年4月1日～平成31年3	講師
黒田 誠	フィードオン	平成30年4月1日～平成31年3	企業等委

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物

URL:<http://www.petanimal.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・各企業や本校には、社会に認知していただくために、口頭や文書、ブログ等に掲載 ・各連携している企業には、口頭による報告、文書による報告を期末ごとに行う

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の精神、事業計画、組織図、
(2) 各学科等の教育	学科・専攻の案内
(3) 教職員	専任と非常勤の比率
(4) キャリア教育・実践的職業教育	職業体験授業
(5) 様々な教育活動・教育環境	職業実践に関する授業科目、現場実習、インターン実習
(6) 学生の生活支援	学生会館の案内、下宿に関する相談支援
(7) 学生納付金・修学支援	奨学金、特待生制度
(8) 学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、
(9) 学校評価	情報公開

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物

## 授業科目等の概要

(動物管理専門課程水族館・ドルフィントレーナー科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	選		ビジネスマナー	人と対する際の礼儀やマナーを身につける社会マナー、試験対策	1	60	2	○			○			○	
	選		S P I	動物業界で必要な知識一般常識	2	60	2	○			○			○	
	選		就職対策講座	就職に必要な履歴書、電話対応、	2	60	2	○			○			○	
必			人と動物の関係学	イルカによるアニマルセラピーを学ぶ	2	60	2	○			○			○	
			魚類学概論 I	魚類の低位群～高位群までの体系を知りその生態を学ぶ	2	60	2	○			○			○	
			魚類学概論 II	水族館で一般常識としての魚類の生理、生態を学ぶ	2	60	2	○			○			○	
			J O F 3 級	息環境である水域棲の理解と動物の分類、主要な動物門に属する生物の生態、発生、行動などに学ぶ	2	60	2	○			○			○	
			海洋生物概論 I	海洋哺乳類とは何か、分類、進化、体の仕組み、など学ぶ	1	60	2	○			○			○	
			海洋生物概論 II	鰭脚類の分類、体の仕組み、分布、保護活動などを学ぶ	1	60	2	○			○			○	
合計			科目		単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	期
	1 学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(動物管理専門課程水族館・ドルフィントレーナー科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			水族館研究Ⅰ	水族館で働くための初期知識を学習し研修などでの事前知識を学ぶ	1	60	2	○			○			○	
必			水族館研究Ⅱ	水族館で使用できる知識、技術を学ぶ	2	60	2	○			○		○		
	選		海岸学・自然観察	海流、気象、地質、潮汐、などを幅広く海を学ぶ	1	60	2	○			○		○		
必			専攻専門講座Ⅰ	教育普及、PC、就職対策	1	##	4		○	○	○		○		○
必			専攻専門講座Ⅱ	アクアビジネスⅡ 仕入れ、販売、接客など、水族館（運営方法、営業方法、企画など）、産官学	2	##	4		○	○	○		○		○
	選		水棲生物の飼育Ⅰ	両生類・爬虫類、水槽管理	1	##	4		○		○		○		
必			水棲生物の飼育Ⅱ	両生類・爬虫類、海洋サイエンス	2	##	4		○		○		○		
必			専攻演習科目Ⅱ	アクアリウム基礎Ⅰ、アクアリウムデザインⅠ、アクアリウムコーディネーター、潜水士	1	##	8		○	○	○		○		○
必			ドルフィントレーニングⅠ	イルカや海獣類のトレーニング基礎を実際に行われている事例をもとに学ぶ（ドルフィントレーニングⅠ、イルカの行動と管理Ⅰ）	1	##	6		○		○		○		
合計			科目		単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(動物管理専門課程水族館・ドルフィントレーナー科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必			専攻演習科目Ⅱ	水槽レイアウトの知識、技術を水族館やアクアショップを基に実践的に学ぶ	1	##	8	○	○	○			○		
必			ドルフィントレーニングⅡ	調教種目の完成プロセスを、学内で飼育している動物たちを通じて実践的に学ぶ	2	##	12	○		○			○		
合計						20科目		2220単位時間(					74単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。